

2025. 3. 17
水道水質基準に関するパブコメ学習会

食品安全委員会のPFASリスク評価の問題点

NPO法人「ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議(JEPA)」代表理事
「有害化学物質から子どもを守るネットワーク(子どもケミネット)代表世話人

弁護士 中下 裕子

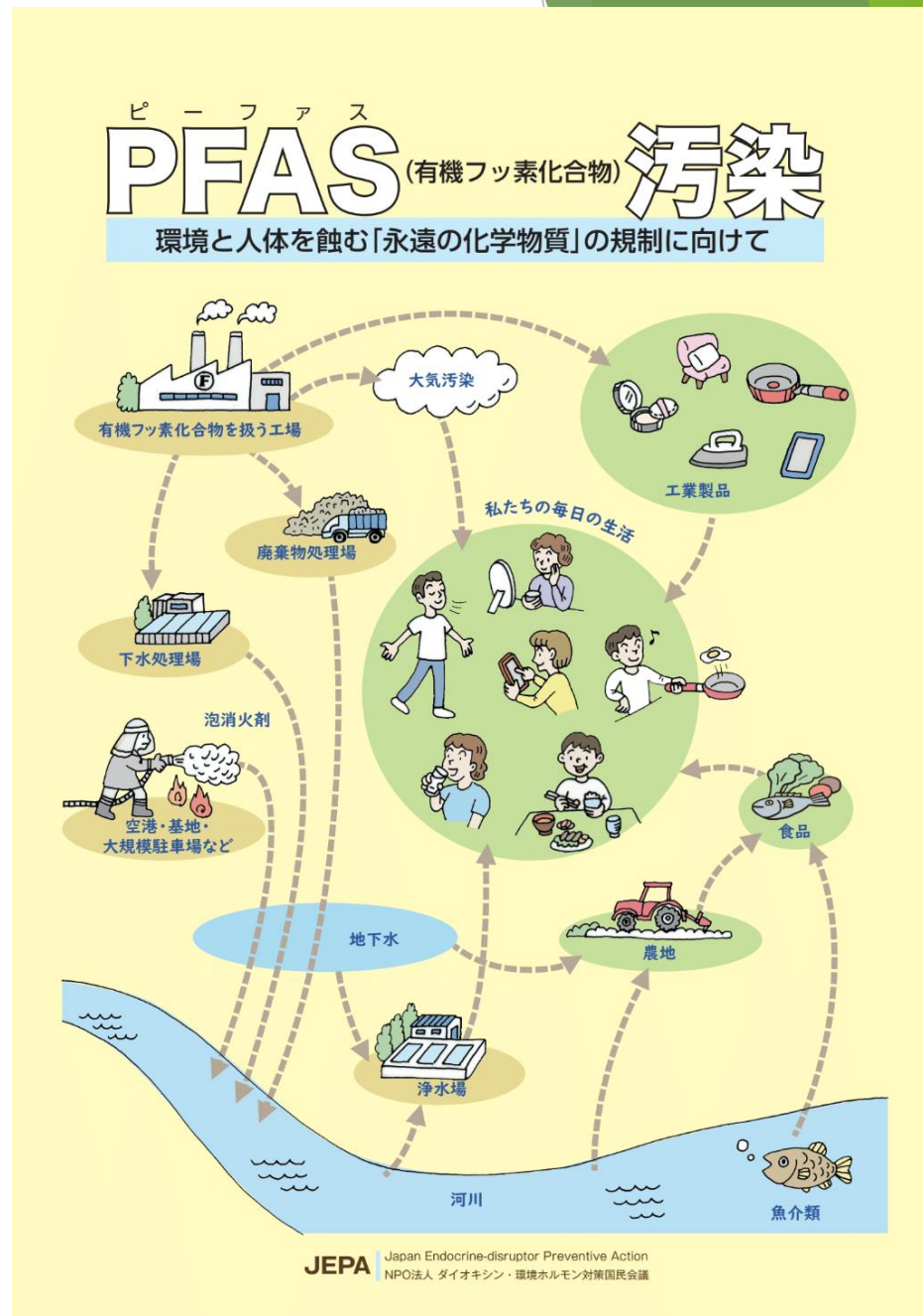
本日の講演内容

- ▶ 1. PFASに関する基礎知識
- ▶ 2. 水道水質規制の状況と今回のパブコメ
- ▶ 3. 食安委のPFASリスク評価の問題点
- ▶ 4. 行動提起: 多くのパブコメ意見を提出しよう!!

1. PFASに関する基礎知識

- ▶ JEPAパンフレット
「PFAS（有機フッ素化合物）汚染
—環境と人体を蝕む「永遠の化学物質」
の規制に向けて」参照

2022年2月10日発行（2023年6月28日一部改訂）



PFASとは？

- PFAS —有機フッ素化合物総称
- 炭素－フッ素結合は極めて強力→環境中で極めて分解しにくい
「永遠の化学物質」(フォーエバーケミカル)
- 難分解性・高蓄積性→人や野生生物の体内に蓄積
北極のアザラシやホッキョクグマの体内や
人の体内に蓄積
→地球規模の汚染 →第二のダイオキシン問題
- 水に溶けやすい →水道水・地下水汚染 特に、沖縄、多摩地域
- 熱や紫外線に強く、水も油もはじく(便利な性質) →多様な用途に使用
- PFASは、約1万種も！(OECD)



水をはじく傘、
レインコート



油がしみない包装紙



水をはじくカーペット



こびりつかない
フライパン



泡消火剤



いつも使っているスマホ



崩れにくい化粧品



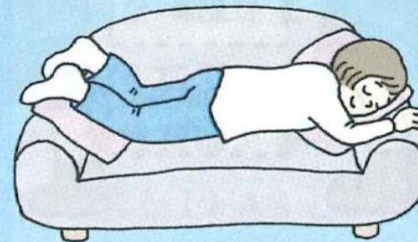
よくすべるアイロン



防水スプレー



汚れにくいカーペット



汚れにくいソファ

PFASの毒性

- 多様な毒性
 - 甲状腺の疾患・異常、環境ホルモン
 - 発がん性：腎臓がん、精巣がん、乳がんなど
 - 生殖毒性：不妊、低出生体重児の増加など
 - 免疫力の低下：ワクチンへの反応が減少
 - 肝臓への毒性：肝疾患との関連
 - 血中コレステロール値の上昇
 - 潰瘍性大腸炎

PFASの安全基準(耐容一日摂取量:TDI)の変遷

- 欧米諸国では、PFOAのTDIが2006年～2020年の14年間で5,000分の1に低下している。
- 2020年以降、さらにTDIの見直しが進められている。

米国EPA

	耐容一日摂取量 (TDI)	エンドポイント
PFOS 【2016】	20 ng/kg体重/日	ラットの生殖・発生毒性
	↓	
【2024】	0.1 ng/kg体重/日	血清総コレステロール値の増加、 低出生体重（出生時体重の低下）
PFOA 【2016】	20 ng/kg体重/日	
	↓	
【2024】	0.03 ng/kg体重/日	血清総コレステロール値の増加、 低出生体重 子どもの血清抗ジフテリア／破傷風 抗体濃度の低下

欧州EFSA

	耐容一日摂取量 (TDI)	エンドポイント
PFOS 【2018】	1.8 ng/kg体重/日	成人の血清中コレステロール値の増加、 子どものワクチン抗体応答低下
	↓	
【2020】	0.63 ng/kg体重/日 <PFOA,PFNA,PFHxS,PFOS の合計>	子どもの血清抗ジフテリア抗体濃度の低下
PFOA 【2018】	0.8 ng/kg体重/日	成人の血清中コレステロール値の増加
	↓	
【2020】	0.63 ng/kg体重/日 <PFOA,PFNA,PFHxS,PFOS の合計>	子どもの血清抗ジフテリア抗体濃度の低下

日本の食品安全委員会による PFOS、PFOA、PFHxSのTDI設定

- 2024年6月、食安委は「評価書：有機フッ素化合物（PFAS）」を公表

	耐容一日摂取量（TDI）	
PFOS	20ng/kg体重/日	米国EPAの2016年の評価のベースとなった文献と同じ文献を採用
PFOA	20ng/kg体重/日	
PFHxS	定めず	

← 米国EPAは、2024年に、2016年のTDIを200倍～666倍厳しくしているのに、何故、そのままの数値なのか？？

- 食安委のTDIに基づき、水道水質基準値を計算すると、
 - ・ PFOS 50ng/L
 - ・ PFOA 50ng/L

となり、**現行基準値のままでもOK**となってしまうが、果たしてそれで国民の健康が守れるのか？？

2. 水道水質規制の状況と今回のパブコメ

今回のパブコメの内容

① 環境省：水道法に基づく水道水質基準に関する省令(案)について

- PFOS+PFOAの量の和として50ng/L以下とすること

現行法(令和2年4月1日施行)では、水質管理目標設定項目中の暫定目標値として、PFOS、PFOAの合計値で50ng/L以下とされていたのを、今回は同じ数値のまま、正式な水道水質基準値とすること

- 施行：令和8年4月1日

今回のパブコメの内容

- ② 環境省：水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準のうち、公共用水域等における要監視項目の「指針値」として、「PFOS及びPFOAの合計値として50ng/L以下」を設定すること
 - 令和2年5月27日に、要監視項目の「指針値（暫定）」として、PFOS及びPFOAの合計値として50ng/L以下が設定されたが、今回の見直しは、食安委のリスク評価を踏まえ、暫定ではなく、正式に指針値とするもの
- ③ 消費者庁：食品衛生法の規格基準の改正（案）
 - ミネラルウォーター類中のPFOS及びPFOAの規格基準として、PFOS及びPFOAの合計値で50ng/L以下を設定すること

日本の水道水質規準

2016 米国EPA飲料水の健康勧告値 PFOS+PFOA 70ng/L

2020 日本、暫定目標値 PFOS+PFOA 50ng/L

「国際的にもPFOSやPFOAの評価が大きく動いている時期でもあり、毒性学的に明確な目標値の設定は困難であるが、現時点における諸外国・機関が行った評価の中で妥当と考えられるものを参考に、我が国の水道水の目標値を設定する」

深刻な日本のPFAS汚染地域(1)

- 環境省 PFOS及びPFOA全国存在状況把握調査結果(令和元年度)より
171調査地点からPFOS、PFOA検出。うち37地点で暫定指針値超過

沖縄県	沖縄市 宜野湾市 中頭郡	ダクシャク川 チュナガー湧水 シリーガー湧水	1508.1ng/L 1303.0ng/L 1188.0ng/L
大阪府	摂津市	地下水	1855.6ng/L
	(参考) ダイキン工場周辺 (2003年度京大調査)	淀川 安威川下水処理場周辺	140ng/L 6万7000~8万7000ng/L
東京多摩地域	立川市 府中市 調布市	地下水 地下水 地下水	337.2ng/L 301.8ng/L 556.0ng/L

深刻な日本のPFAS汚染地域(2)

- 岡山県吉備中央町のPFOA汚染

PFOAを高濃度に吸着した**活性炭**に起因する水汚染

住民の血液検査結果(PFOA) **平均171.2ng/ml**

全国に広がるPFAS汚染地域

- 青森県三沢市
- 東京都多摩地域
- 千葉県柏市、鎌ヶ谷市、白井市
- 神奈川県横須賀市
- 神奈川県座間市
- 静岡県静岡市清水区
- 静岡県浜松市
- 愛知県豊山市
- 岐阜県各務原市
- 三重県四日市市
- 京都府綾部市
- 大阪府摂津市
- 兵庫県明石市
- 広島県東広島市
- 熊本県菊陽町
- 沖縄県沖縄市、宜野湾市他

汚染原因は？

- ①基地（米軍・自衛隊）からの流出
- ②産業廃棄物施設からの流出
- ③PFAS製造工場、PFAS使用（半導体製造等）
工場からの流出

JEPAでは府中市・国分寺市の住民の血液検査を実施 (2020.8)

- 府中市、国分寺市では長年にわたって地下水を飲料水として使用していたが、地下水のPFOS・PFOA汚染が判明したため、2019年6月から水源の井戸からのくみ上げを停止し、水源を川の水に切り替えた→その結果、この地域の水道水も基準値以下に

← しかし、長年飲料水を摂取した住民の体内に汚染が蓄積しているのではないか？

- 府中市11名、国分寺市11名の住民の協力で血液検査を実施
(中地重晴熊本学園大学教授グループの協力)

検査結果は一

- PFOS:環境省調査(2011~2015)の平均値・中央値と比較して、府中市は**約2倍**、国分寺市は**約1.5倍**高かった。
- PFHxS(PFOSの代替物質):
府中市は**約27倍**、国分寺市は**約29倍**高かった。

<参考>ドイツにおける血漿中のPFOS・PFOAの指針値

HBM-I :その値以下であれば特に影響等はないと考えられる値

PFOS:5ng/ml

HBM-II :この値を超えると、健康影響があると考えられるレベルであり、

緊急にばく露低減策を取る必要がある値

PFOS:**20ng/ml**(妊娠可能性のある女性は**10ng/ml**)

世界の飲料水基準

国	PFOS	PFOA	PFHxS	制定
カナダ	30 (総PFAS の合計)			2023*
ドイツ (EU)	20 (PFAS 4物質の合計)			2023**
ドイツ (EU)	100 (PFAS 20物質の合計)			2023**
デンマーク	2 (PFAS 4物質の合計)			2023
スウェーデン	4 (PFAS 4物質の合計)			2023
オーストラリア	70 ***	560	70***	2017
WHO	(100)	(100)	(500)****	2023
アメリカ	4	4	10	2024
日本	50		—	2026

* 2023.4までの意見募集後に改訂して飲料水ガイドラインに

** 欧州飲料水指令改正により規制値に。適用は2026年および2028年

*** PFOS + PFHxS の合計 **** 総PFAS

引用：諸永裕司「PFAS汚染
いまの重要課題」
高木基金市民フォーラム
(2025年3月9日)

3. 食安委のPFASリスク評価の問題点

リスク評価（食品健康影響評価）とは

食品中に含まれる有害物質などを摂取することにより、どのくらいの確率でどの程度の健康への悪影響が起きるかを科学的に評価すること

Hazard Identification ハザードの特定

ヒトの健康に有害影響を及ぼすおそれがある食品中の物質等を特定

Hazard Characterization ハザードの特性評価

健康への有害影響の性質等を評価

動物試験やヒトでの調査結果（疫学研究）を評価

↓
耐容一日摂取量の設定

Exposure Assessment ばく露（摂取量）評価

食品から危害要因をどの程度摂取しているのかを推定

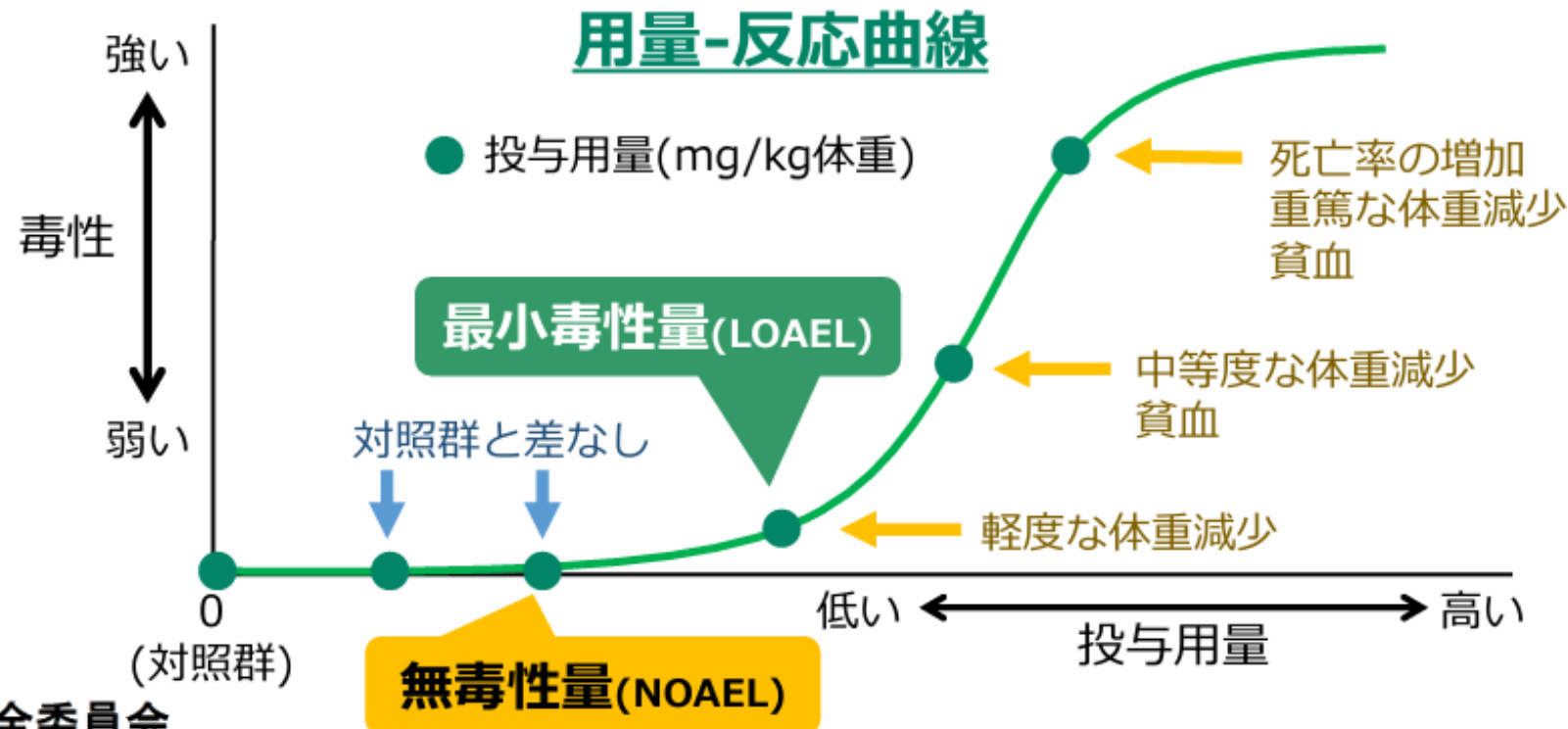
Risk Characterization リスクの判定

比較して健康への有害影響が生じる可能性と影響の程度を評価

引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月25日

動物試験のデータ

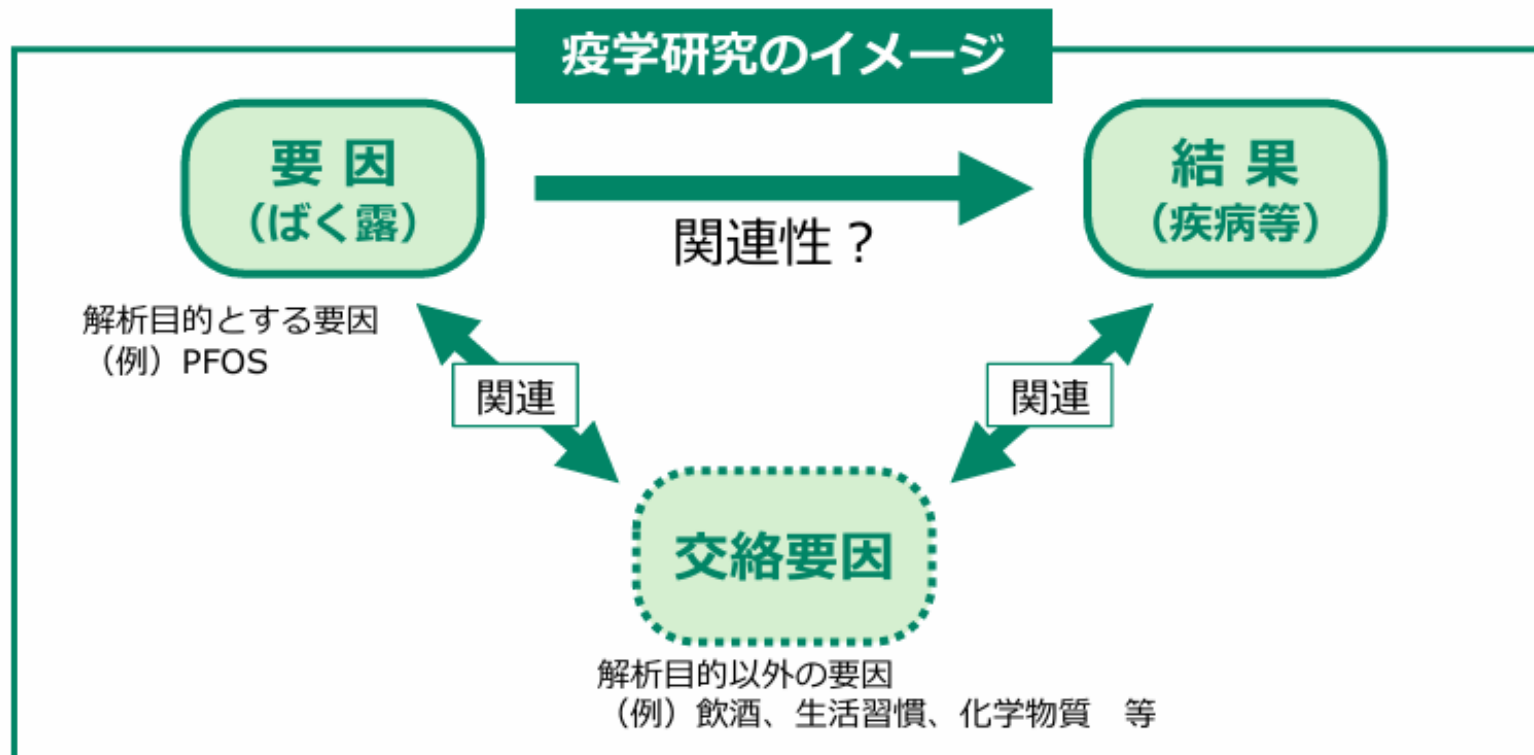
特徴	限界
目的に応じて、用量など試験条件の設計が可能	動物とヒトとでは種差があり、 動物のデータをヒトに当てはめて類推 することが妥当かどうか、 慎重な検討が必要
多い量を投与して解剖などを行い、影響を細かく検討し、ヒトでの影響を推測する上で有用	多くの場合、動物で見られる影響は ヒトが現実にはばく露し得る水準よりはるかに多い用量での試験の結果 であることも留意が必要



引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月25日

疫学研究のデータ

特徴	限界
ヒトの集団における健康関連の様々な事象（疾病の発生等）の頻度と分布、それらに影響を与える要因を研究	交絡要因等により、真の関連とは異なった関連が観察されることがある → 研究設計やデータ解析が必要
化学物質のばく露により生じる可能性のある健康影響についての有用な情報を提供	疫学研究の結果の確からしさにも限界あり



引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月25日

耐容一日摂取量（TDI）の設定

- 意図的に使用されていないにもかかわらず食品中に存在する化学物質に設定
- 毎日摂取し続けても、健康への悪影響がないと推定される一日当たりの摂取量
- 動物試験やヒトの疫学研究の結果から、科学的に適切と判断される研究や結果を選択し、それに基づき設定
- 子どもや高齢者などにも適用される指標値

動物試験から設定する場合

無毒性量（NOAEL）

様々な実験動物（ラット、マウスなど）を用いた様々な毒性試験において、何ら有害作用が認められない用量レベルの最小値

÷

疫学研究から設定する場合

無毒性量（NOAEL）

疫学研究において、有害作用が認められないばく露量レベル

÷

安全係数（または不確実係数）

動物データや疫学研究からヒトにおける安全性を確保するための係数

※ 動物データの場合、種差と個体差を勘案して100が一般的だが、データの質に応じて異なる係数を用いる場合あり



耐容一日摂取量（TDI）

引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月25日

食安委のPFASリスク評価プロセス(その1)

<評価体制>

● 方針：PFASの健康影響について

【方法】 国際機関及び各国政府機関等の評価に関する情報と、最新の科学的知見を、1つ1つ丁寧に専門家が精査・確認する

【目標】 現時点で何がわかっているのか、また、何がわかっていないのかを明らかにすることにより、PFASの健康影響を評価する

✓ 海外評価機関が採用しているエンドポイント及び指標値は大きく異なり（PFOSで約600倍、PFOAで約5,300倍）、現時点では、PFOS、PFOA及びPFHxSについて、国際的に整合性の取れた健康影響評価が確立されている状況ではない。

● 検討主体：有機フッ素化合物（PFAS）ワーキンググループ

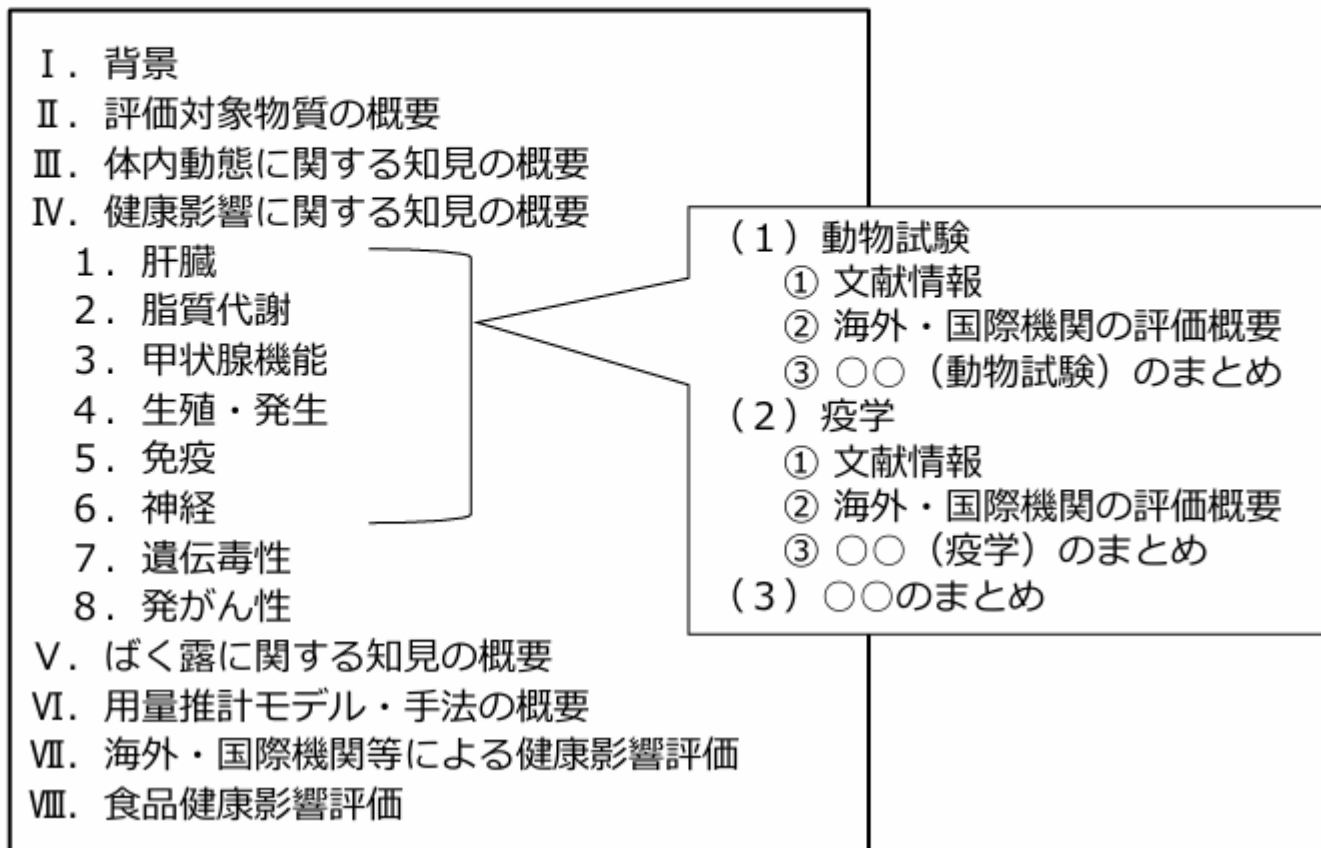
- 座長：姫野誠一郎 専門科学者22人（委員10人、参考人12人）
- 令和5年2月～令和6年6月まで計9回にわたり議論
- 分野ごとに専門家が精査し小括、最終的に統合的に全員で検討

引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月27日

食安委のPFASリスク評価プロセス(その2)

<評価書(案)の構成>

- 健康影響の評価については、収集した文献(査読付き論文)の情報から評価した。
 - ▶ 本評価では、海外評価機関等の評価書で取り上げられたエンドポイント(有害影響を評価するための指標となる生物学的事象)について、エンドポイント別に整理し検討した。



引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物(PFAS)の食品健康影響評価について」2024年6月25日

食安委のPFASリスク評価プロセス(その2)

<健康影響の評価>

- 評価の対象とする健康影響については、海外の評価機関等による評価書を参考に選択し、エンドポイント（有害影響を評価するための指標となる生物学的事象）別に整理し検討した。
- その他の健康影響については、収集された文献を検討した結果、エンドポイントとして評価を行うには知見が不十分であると判断した。

● 検討した健康影響

- ・ 肝臓
- ・ 脂質代謝
- ・ 甲状腺機能と甲状腺ホルモン
- ・ 生殖・発生
- ・ 免疫
- ・ 神経
- ・ 遺伝毒性
- ・ 発がん性

関連が否定できなかった影響

- 「血清ALT値の増加」
- 「血清総コレステロール値の増加」
- 「ワクチンの抗体応答の低下」
➔ 関連は否定できないものの、証拠は不十分
- 「出生時体重の低下」
➔ 関連は否定できないものの、知見は限られており、出生後の成長に及ぼす影響についてはまだ不明

引用：内閣府食品安全委員会「有機フッ素化合物（PFAS）の食品健康影響評価について」2024年6月25日

エンドポイントごとの検討結果

肝臓	• 増加の程度が軽微であること、のちに疾患に結びつくか否かが不明であり臨床的な意義が不明であること等から、影響を及ぼす可能性は否定できないものの <u>証拠は不十分であり、指標値を算出することは困難</u>
脂質代謝	
免疫	• ワクチン接種後の抗体応答の低下について、可能性は否定できないものの、これまで報告された知見の <u>証拠の質や十分さに課題があり、指標値を算出することは困難</u>
生殖・発生	• 疫学研究 ：出生時体重低下との関連は否定できないものの <u>知見は限られており</u> 、出生後の成長に及ぼす影響については不明であり、 <u>指標値を算出するには情報が不十分</u> • 動物試験 ：出生児への影響について複数の報告が同様の結果を示し、 <u>証拠の確かさは強い</u> ▶ ただし、 <u>動物試験の結果は高用量でみられた影響であり、疫学研究でみられた出生時体重の低下とは分けて考えることが適当</u>
発がん	• PFOA と腎臓がん、精巣がん、乳がんとの関連については、関連がみられたとする報告はあるものの、ほかに関連がなかったとする報告もあり、結果に一貫性がなく、 <u>証拠は限定的</u> • PFOS と肝臓がん、乳がん、 PFHxS と腎臓がん、乳がんとの関連については、 <u>証拠は不十分</u>

PFOS及びPFOAの摂取と健康影響の関連について、動物試験・疫学研究から得られた科学的知見を、一つ一つ精査した結果、活用可能な根拠として、PFOS及びPFOAの動物試験でみられた出生児への影響が挙げられました。

評価基準となる文献の大量差し替えが判明！！

- (一財) 化学物質評価研究機構 (CERI) における文献選定 (2022.11~2023.3)
リスク評価における重要度のランク付けを専門家により行い、
計2,969報の文献から257報を選定

A: 日本におけるリスク評価の根幹として最重要である文献
B: リスク評価の上で参考となる文献
C: リスク評価には不要と考えられる文献

- 選定した有識者:

石塚真由美、伊藤佐智子、諫田泰成、久米利明、小池英子、鯉淵典之、小坂浩司、澤田典絵、田中徹也、中山祥嗣、長谷川健、姫野誠一郎、広瀬明彦、宮下ちひろ、森田健、吉成浩一

(オレンジの下線は食安委の専門委員・専門参考人と重複)

評価基準となる文献の大量差し替えが判明！！

- 第2回ワーキンググループ会合(2023年5月26日開催)において、前述の257報に基づき議論が行われた。257報中、最重要文献(AA, A)は165報含まれていた。
- その後、第3回～第5回ワーキンググループ会合の前の非公式会合において、計201報の文献が追加された(うち10報はCERIで選ばれなかった文献)

その一方で、計190報が除外され、その中には122報の最重要文献が含まれていた!!

評価基準となる文献の大量差し替えが判明！！

- 第9回ワーキンググループ会合において、PFAS評価書(案)が公表された。その末尾に記載された「参照」文献は268報であった。
しかし、268報の中身を見ると、CERIが選定した257報のうち、残っていたのは67報だけで、全体の7割以上が差し替えられていた！！
さらに、その67報中、最重要論文は43報であった。つまり、CERIが選定したA、AA論文165報のうち、最終参照文献に残ったのはわずか43報にすぎなくなっていたのである(CERIの選定者のうち、11名が食安委のリスク評価の専門委員・専門参考人を務めていたことは既述の通り)。
- これらの文献大量差し替えは、全て非公式会合で秘密裏に行われており、公式会合では一切説明されていない。参照文献の記載も通し番号で記載されておらず、しかも文献リストはExcelではなくPDFで公表されており、第三者による検証作業が著しく困難な形となっている。

除外された文献はどのような内容だったか？

通し No.	エンドポイント	タイトル (<i>Animal, Epidemiology</i>)	年	著者	CERI 文献ランク	CERI No.	概要
1	代謝	PFAS Concentrations and Cardiometabolic Traits in Highly Exposed Children and Adolescents	2021	Canova et al.	AA	854	PFAS製造企業による水質汚染が起きたイタリア・ベネト州の20歳未満(9千人)、血清脂質と正の関連
2	肝毒性	<u>Associations between perfluoroalkyl substances and lipid profile in a highly exposed young adult population in the Veneto Region</u>	2020	Canova et al.	AA	D828 除外	PFAS製造企業による水質汚染が起きたイタリア・ベネト州の20-39歳(1万6千人)、PFASとコレステロール値と正の関連を示唆
3	腎臓	Perfluoroalkyl substances (PFASs) exposure and kidney damage: Causal interpretation using the US 2003-2018 National Health and Nutrition Examination Survey (NHANES) datasets	2021	Moon et al.	AA	D993	全米大規模調査、PFASが腎機能低下と有意な関連あり
4	発がん性	Risk assessment for PFOA and kidney cancer based on a pooled analysis of two studies	2022	Steenland et al.	AA	D991	2報疫学のプール分析。腎臓がんと有意に関連あり、飲料水中PFOA濃度0.0015ng/Lを提案
5	発がん性	<i>Exposure to perfluorooctanoic acid leads to promotion of pancreatic cancer</i>	2022	Kamendulis et al.	A	D1108	動物実験での膵臓がん・発がん性を示唆する研究
6	免疫	Effects of exposure to per- and polyfluoroalkyl substances on vaccine antibodies: A systematic review and meta-analysis based on epidemiological studies	2022	Zhang et al.	A	D926	免疫毒性(ワクチン接種後抗体価)のメタ解析

除外された文献はどのような内容だったか？

7	生殖・発生	Prenatal exposure to per- and polyfluoroalkyl substances and infant growth and adiposity: The healthy start study	2019	Starling et al.	A	597	母親の血中PFAS濃度と乳児脂肪量増加に関連あり
8	心血管	Serum polyfluoroalkyl chemicals are associated with risk of cardiovascular diseases in national US population	2018	Huang et al.	AA	860	PFAS曝露が心血管疾患リスクと正の相関
9	内分泌	PFOA is associated with diabetes and metabolic alteration in US men: National Health and Nutrition Examination Survey 2003-2012	2018	He et al.	AA	793	糖尿病、成人総コレステロールと正の関連あり
10	発がん性	Associations between Polyfluoroalkyl Substances Exposure and Breast Cancer: A Meta-Analysis	2022	Jiang et al.	A	D794	乳がん8報のメタ解析。PFASが乳がん危険因子である可能性を示唆
11	生殖・発生	Per- and polyfluoroalkyl substances exposure during pregnancy and adverse pregnancy and birth outcomes: A systematic review and meta-analysis	2021	Gao et al.	A	D689	生殖毒性29報のメタ解析。流産、早産リスクとの関連を示唆
12	ばく露	東京都内の水道水中の有機フッ素化合物濃度および組成分布	2012	今井ら	A	D247	都内水道水の汚染調査結果（2011年調査）

注記： 1：タイトル欄のフォントがイタリック（斜体）は動物実験、レギュラー（通常）が疫学研究。

追加された文献は？

- 追加された文献の201報の中には、PFOS、PFOAを製造していた米大手化学メーカー3Mによるものが9報含まれていた（CERIの評価では、「B」「BB」が7報、「C」が1報、「DB」が1報）。
- このような利益相反の疑いのある文献は、主として健康影響との関連を否定する文脈で使用されていた。

このような大量差し替えをどう見るか？ — 専門家の見解 (Slow Newsより)

＜リスク評価の基本姿勢＞ (食安委ホームページより)

利用可能な最新の科学的知見に基づき、科学的判断のもとで適切に、一貫性、公正性、客観性及び透明性をもってリスク評価を行い、評価内容を明確に文書化する

- 遠山千春氏

「差し替えが事実であるとするれば、PFASリスク評価への信頼が失われる。食安委は疑問に答え、説明する必要がある。」

このような大量差し替えをどう見るか？

— 専門家の見解 (Slow Newsより)

- 原田浩二氏

「最終的な評価で問題があるからその論文は使わないということはあるが、それは最終段階。追加されることはありますが、途中で外すことはしません。普通は最後までいって判断するのがリスク評価です。」
「プロセスが明快でないといけません。どういう判断基準でやっているのか他の人がみても理解できることが重要」

- 木村一黒田純子氏

「非公式会合で論文の差し替えをやっていて透明性がない。説明なしの入れ替えはダメです」

このような大量差し替えをどう見るか？

— 専門家の見解 (Slow Newsより)

- 鯉淵典之氏

「POD (TDIを導き出す根拠として使うことができる研究結果) を選びながら文献の取捨選択することこそ、やってはいけない」「参照する論文を差し替えてしまえば、あらかじめ導き出した結果に合わせて結論を変えることができてしまう。PODを選びながら文献を取捨選択したとすれば、少なくとも、そう疑われる余地が残る。文献を差し替えれば、評価の前提が変わり、結果も変わりうる。だから、こんな大量の差し替えはやってはいけない。リスク評価が根底から崩れたといえるでしょう」

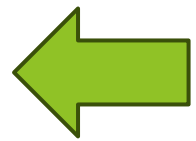
食品安全委員会の反論 (Slow Newsより)

- 「CERIによる文献選定は、ある一定のルールに基づいてアブストラクトとか表題から絞ってもらった。ここで選ばれた文献はリスク評価の出発点で、その後、金科玉条のように動かさないということではない。」「委員の先生方には文献をすべて原文で取り寄せて読んでもらっている。その後の議論の中で、委員の先生方が必要な文献を追加されているのであって、『差し替え』と表現されることは極めて遺憾」(食品安全委員会事務局)



問題は「追加」ではなく、「除外」と、それらが非公式の場で、その理由を一切公表することなく行われたこと

- 除外については、委員の広瀬氏も、「(リストに)残しておいていいと思う。減らす理由はない。なんで落としたか謎です」と返答している。
- 座長の姫野氏は、「評価書を作成することが最重要課題で、その過程で評価軸は変わりうるため、参照したものの最終的に採用されないものもある」「除外したのは、リスク評価に重要ではないと判断したため」と主張。



最終的に採用されない場合でも、リストに残し、その理由を明らかにする必要があるはず。途中で除外と追加を繰り返すようなやり方では、評価の妥当性の検証ができず、およそ科学的リスク評価とはいえない。リスク評価の基本理念である透明性、客観性、公正性に反することは明らか。

本件リスク評価は、「科学」とはいえない!!

- リスク評価は、「科学的評価」でなければならない。
- 「科学」とは第三者による検証可能なものでなければならない。
- しかし、本件リスク評価は、評価プロセスの大半が非公式の場で実施され、しかも評価の基礎となる文献が大量に追加・除外され、その理由も一切公表されていない。これでは第三者による検証が不可能である。
⇒ 第三者による検証もできないようなやり方で実施されたリスク評価は、「科学的リスク評価」ではなく、「恣意性」を否定できない!!
- 原田浩二氏は、「公開されないルールは恣意的なものでしかない。評価軸が示されず、プロセスが不明瞭なこと自体が評価の信頼性を損なう」と指摘している。

何故、食安委は、このようなリスク評価を行うことができたのか？

- 評価のプロセスは専門性が高いので一般人には理解できないから、結論だけ公表すれば十分と考えていたのではないか？

姫野氏「議決機関と、事前に検討する機関は違う。僕の中では、議決機関は公開のワーキンググループ」(SlowNews)

- しかし、日本国内には、一般人ばかりでなく、研究者など専門性の高い人もいるし、世界にはもっと多くの科学者・専門家がいる。それらの人々による妥当性の検証に耐えるものでなければ「科学」ではない。
- そもそも、主権者である国民に対する説明責任をどう考えているのか???
- こんな機関に国民の健康が守れるのか???

4. 行動の提起：多数のパブコメ意見を提出しよう!!

今こそ、私たちの抗議の声をパブコメとして提出しよう!!

- 食安委のリスク評価は根底的に信用性を欠いており、やり直しが必要。少なくとも食安委は全てのプロセスを公開し、説明責任を尽くすべきです。

- 3つのパブコメ: ①環境省・「水道水質規準等の見直し」

- ②環境省・「水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準等の見直し」

締切: 3月27日(木)

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public>

- ③消費者庁・「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する告示(案)」(清涼飲料水(PFOS及びPFOA)に係る改正)に関する意見の募集

締切: 3月27日(木)

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public>

● 意見の例

例1)「食品安全委員会が実施したリスク評価の基礎となる参照文献が非公式の場で大量に追加・除外されていることが判明しています。このようなリスク評価は、食安委の基本姿勢である公正性・客観性・透明性を欠いており、第三者による妥当性の検証も不可能です。このようなリスク評価は到底「科学」とは言えず、信用性はありません。従って、食安委のリスク評価値(PFOS、PFOAについて各20ng/kg体重/日)に基づいて水道水質基準値を設定する本案は妥当ではありません。

食品安全委員会は、文献の追加・除外とその理由を含め、全ての評価プロセスを公表するとともに、国民との意見交換会を実施すべきです。

環境省は、PFOS、PFOA、PFHxSについて自らリスク評価を行ったうえで、真に国民の健康を守る水道水質基準値を設定すべきです。新たなリスク評価値が示されるまでは、暫定的にアメリカのPFOS、PFOAについて各4ng/L、PFHxSについて10ng/Lを採用することを提案します。」

例2)「食品安全委員会のリスク評価は、非公式の場で、評価の基礎となる文献の大量出入れや実質的な議論が行われるなどの問題があり、到底信用できません。そのような問題のあるリスク評価に基づき水道水質基準値を設定すべきではありません。

もう一度、透明性・客観性・公平性・一貫性のあるリスク評価を行うことを求めます。」